

活字文化推進の羅針盤として歩む

株式会社光和コンピュータ 代表取締役社長・寺川光男

2000年の夏、初めて文化通信社の星野浩さんとお会いしたと記憶しております。四半世紀前ということになります。

湯島のすし屋で、冷の日



矛盾を抱えながら歩んできた出版業界、ということになります。その後も、ことある毎に貴重な業界動向や問題意識の共有の場をご一緒させていただきました。

本酒を片手に熱く出版業界のあり様について語られていたのを鮮明に覚えています。口癖は「これじゃ駄目ですよ」。当時から「雑誌依存型の今の書籍流通構造は必ず瓦解する」と確信を持って語られていました。

文化通信社が活字文化推進の羅針盤として歩まれた80年。当社もまたその背中を見ながら、「システムとマーケティング」をキーワードに業界になくしてはならない企業を目指して精進していきたく思っています。お気に入りの一冊は『ゲド戦記

今はだれの目から見ても明らかな現状ですが、逆に言えば四半世紀も根本的な

影との闘い』(岩波書店)です。